

## 埼玉 NGO ネットワーク 2020 年 1 月定例会・公開勉強会 議事録

日時：2020 年 1 月 14 日（火）9:30～11:30

会場：さいたま市民活動サポートセンター（さいたま市）

出席者：グローバル教育フォーラム赤石和則代表（議長）、AAA アジア&アフリカ山崎毅史本部長、IV-JAPAN 瀧口恭平事務局次長、エクアドルの子どものための友人の会東城康夫理事、埼玉県国際課佐藤保志主幹、埼玉県国際交流協会難波亜希子主査、埼玉県ユニセフ協会吉田隆宏事務局長、埼玉 YMCA 小谷全人代表理事、シェア・ザ・プラネット筒井哲朗代表理事、芝浦工業大学中口毅博教授、たかつか行政書士事務所高塚雄一行政書士、ふじみの国際交流センター荒田光男理事、民族フォーラム山本孟人理事長、尾嶋佐和子理事、皮籠石成久監事、加藤陽一理事・事務局長

以上 16 名。 団体名アイウエオ順。

### 配布資料：

「埼玉 NGO ネットワークの強化案策定に関するタスクフォースの提言」(事務局)、  
「グローバルセミナー2020 チラシ」(作業部会)、「外国人総合相談センター埼玉」  
「在住外国人向け健康保険証について」(埼玉県国際課)、「いじめのない世界をめざそう 2020」(埼玉 YMCA)、「令和元年度蕨高校グローバル人材育成事業アンケート集計結果」(芝浦工大中口毅博研究室)。

赤石和則埼玉 NGO ネットワーク副代表理事を議長に議事を進行した。

### 1. 報告・意見交換

#### (1) タスクフォース提言の説明

事務局長から配布資料を基にタスクフォースメンバー5 名で作成した提言について内容の説明があった。主な内容は、運営体制については、理事会機能を充実させるため理事数の適正規模と定期的開催、事務局人材確保のため運営経費助成の申請、定例会・勉強会は幅広い国際協力関係者の情報交換の場とするなど。財政基盤については、事業の充実のため助成申請と実施体制の構築、正会員（団体会員）会費を 5,000 円とするなど。今後のスケジュールとして、提言の内容を反映させた 2020 年度事業計画・予算書を 3 月理事会で、役員選任を 6 月総会で決定する。

#### (2) グローバルセミナー2020

グローバルセミナー2020 に関して主催三者作業部会の尾嶋氏より経過報告があり、今後は参加者募集に力を投入するので協力の依頼があった。申込者は現時点で 15 名、例年は終盤に申し込みが増加する傾向だが、今年度は主催三者覚書の JICA 承認に時間がかかりチラシの配布が遅れている。昨年末に県内小中高校へ、

県国際交流協会から同会会員へ、埼玉 NGO ネットワーク会員へ配布が行われた。この他に、主催団体のホームページやフェイスブック、メーリングリスト、メールマガジンなどで発信を行っている。また、前日に作業部会で設営を行い、当日の主催関係者の集合は9時15分会場とする。

## 2. 情報交換

### 順不動

加藤氏：1月21日に JICA 東京と埼玉 NGO ネットワークは JICA 本部及び JANIC が同席して、埼玉県での国際協力推進のための連携強化を目的に話し合いを行う。赤石副代表、筒井副代表、加藤事務局長が出席する。

筒井氏：前述の JICA 東京と埼玉 NGO ネットワーク連携強化の一環として、JICA 東京は埼玉県、さいたま市、大宮アルディージャ、埼玉 NGO ネットワークなど国際協力関係団体で構成されるラオス調査団を2月に派遣する。埼玉 NGO ネットワークから筒井副代表が参加する。シェア・ザ・プラネットは JICA の NGO 提案型の採択を受けて3月より「NGO『オンリーワン戦略講座-NGOのブランディングによる組織力強化研修-』を行う。詳細は団体ホームページに掲載。

荒田氏：ふじみの国際交流センター石井ナナエ理事長の活動日記をまとめた本「毎日が波乱万丈」を出版した。外国にルーツを持つ住民の実情や NPO 法人の運営や事業について、日々取り組んでいる市民団体の目線から理解できる。注文は団体ホームページから。自己資金獲得のためマンスリーサポーターを募集中。

山崎氏：ウガンダで職業訓練事業を進めている。

瀧口氏：12月24日に富永代表理事がラオスに復帰した。1月6日よりIV-JAPAN 日本事務所の勤務時間は8時～17時に変更した。

山本氏：川口市は在住外国人が全国でも多いが川口市役所は3月8日に多文化ふれあいフェスタを開催する。NGOに協力依頼があり民族フォーラムも参加するが、行政主体で市民団体との関係に課題がある。

小谷氏：2月にフィリピンへ青少年をワークキャンプに派遣する。全国の YMCA で「いじめのない世界をめざそう 2020」キャンペーンを別添の様に2月26日中心に行っている。

東城氏：JICS の運営助成金を獲得し、組織の持続性を確保するため事務局体制の強化に取り組んでいる。認定 NPO 法人の取得を目指しているのでご指導をお願いしたい。

高塚氏：川口市で行われているクルド人支援に、また芝園団地でかけはしプロジェクトにボランティアとして参加している。

皮籠石氏：海外に勤務する教員の研修会及び公民館で国旗の話をする。

佐藤氏：外国人総合相談センター埼玉で新規にインドネシア語とネパール語の

相談を別添の様に開始しているので周知をお願いしたい。全国健康保険協会埼玉支部は在住外国人向けに健康保険証の案内パンフレットを発行している。

難波氏：グローバルセミナー2020 の参加者募集に力を入れている。例年よりチラシ配布が遅れているのでこれから参加呼びかけを活発に行く。

吉田氏：埼玉県ユニセフ協会が発足してから今年で20周年を迎える。記念事業を6月開催で企画中。

中口氏：10月21日に行われた県立蕨高校グローバル人材育成事業に中口教授をコーディネーターにNGO・JICA・県国際交流協会など9団体が講師に参加したが、高校生アンケートの集計結果が別添の様に出た。12月21日に芝浦工大で開催された「次世代SDGsフォーラム」での大学生アンケートと比較も行っている。

## 公開勉強会

タイトル：「ウガンダでの教育・植林・職業訓練支援及び国内災害支援について」

講師：山崎毅史 AAA アジア&アフリカ本部長

主な内容：

世界的なアフリカ飢餓救援を受けて救援運動に参加していたが、その後、飢餓が収束したとの報道を受けてケニアに調査団を派遣、支援の必要性を確認して1993年に団体を設立した。ケニア北西部乾燥地帯で乏しい水により病気にかかっている事、貧しい現地住民からのおもてなしが汚れているが貴重な水で有ったこともあり、水確保のための井戸掘り事業を開始し、現地NGOをカウンターパートに井戸掘り隊を派遣してきた。川の伏流水地帯で井戸1本の経費は約30万円、約1000人の住民に水を確保できる。同時に国内で会員や支援団体の賛同を呼びかけてきた。

続いて、乾燥地帯での環境と生活を守るため植林事業として現地で苗木を購入し学校等で植林を行い、また女子や障害児など育児放棄された子どもたちのために孤児院を開設した現地女性を支援してきた。

その後、ケニアで大規模テロがあり、安全管理の面から活動地をウガンダに移した。駐日ウガンダ大使・公使の協力を得て、農村で小学校建設などの教育支援、井戸掘りによる水の確保、植林など彩の国さいたま国際協力基金などの支援を得て進めてきた。AAAアジア&アフリカから現地にスタッフを派遣し約10数年に渡り駐在し、この間に現地住民を主体としたAAA-U(ウガンダ)を発足させて運営管理、事業実施の主体に育ててきた。

支援小学校の卒業生の中には現県知事もおり、現農林大臣で前知事も理解があり、現地ネットワークも広がりつつある。植林事業(苗木1本30円)は拠点村

から県内各村に波及しつつある。医療支援として医療物品が乏しく機能が十分に果たせない村のヘルスセンターに医薬品や中古救急車（彩の国さいたま国際交流・協力ネットワーク事業）を提供、小学校にはピアノを寄贈している。ケニアでも人気の村対抗サッカー大会を開催し、村の開発事業に使う優勝賞金を出している。中古車両・物資は内陸国のため日本からの輸送費がかかる事が課題である。若者の失業率が高いことが貧困のひとつの原因となっている事から、職業訓練事業を始めるため訓練校の建設を行っている。

国内災害支援は東日本大震災及び熊本地震への緊急支援及び復興支援を行ってきた。災害発生後直ちに現地へ行き必要性確認⇒初期緊急支援⇒現地カウンターパートとの連携・活動拠点開設⇒避難所支援・仮設住宅支援⇒復興支援と繋げている。熊本地震には農業支援を3年間継続して行い、赤い羽根募金事業助成金を得て延1000人のボランティアが参加してきた。

#### 今後の予定

2月グローバルフォーラム 2月9日（日）

3月理事会

4月定例会・勉強会

5月定例会・勉強会

6月総会

日程は今後調整を行う。

2020年1月15日

NPO 法人埼玉 NGO ネットワーク

（文責）事務局長 加藤陽一

## NPO 法人埼玉 NGO ネットワークの強化案策定に関するタスクフォースの提言

### 始めに

2019年3月20日に開催された2018年度第3回理事会で承認された「2019年度事業計画」において、埼玉 NGO ネットワークのネットワーク強化案策定のために下記の様にタスクフォースを設置することが決まりました。

### 2019年度事業計画：「4. タスクフォースによるネットワーク強化案策定」

埼玉 NGO ネットワークの目的を明確にし、役割を高めるため、目指すべき方向性や組織及び事業の強化策を立案するタスクフォースを設置し、年内を目途に作成して理事会に提出し、2020年度事業計画に反映させます。

#### ①タスクフォース委員：

2019年度代表理事（座長）、副代表理事2名、理事1名及び事務局長の5名から構成します。

②開催回数：年間3～5回の会議を開催して協議し策定します。

#### ③強化策：

2019年12月までに策定し、3月理事会で2020年度事業計画に反映させます。

### 経過説明

これを受けてタスクフォースの委員に、富永幸子代表理事（座長）、筒井哲朗副代表理事、赤石和則副代表理事、尾池富美子理事、加藤陽一理事・事務局長の5名を選任し、6月18日に第1回会議、9月26日に第2回会議、12月5日に第3回会議を開催し、3回とも全員が出席し討議を進めてきました。この経過報告は定例会で3回とも説明をし、また、報告内容は定例会議事録の付属資料として添付し会員メールングリストで報告をしてきました。

### 提言提出

タスクフォース委員は全員の総意で提言を2020年度事業計画へ反映させるため、埼玉 NGO ネットワーク理事会に提出します。なお、提言は組織運営及び事業の目指すべき方針であり、その実現は対外的要因もあり時間的余裕が必要なことから、中期3か年計画として実現を目指すことが適切であります。

2019年12月20日  
埼玉 NGO ネットワーク代表理事  
タスクフォース座長富永幸子

## 提言の骨子

埼玉 NGO ネットワークの目的～埼玉県 of NGO 強化及び NGO 間ネットワーキング並びに関係機関との協働によって、公正で共生するグローバル市民社会を目指す～の実現のため、ネットワーク力を高めることを目指し、運営体制、財政基盤の強化について提言をまとめた。

### 1. 運営体制

理事会及び事務局の機能の充実を図る。重要事項決定の過程で正会員の意見を聞く機会を設ける。定例会は幅広い団体、関係機関との連携を進める場とする。

#### (1) 理事会

- ①理事会の意思決定を迅速かつ正会員の意思を反映する適正規模にするため、2020 年度は理事 7 名（定款により正会員 6、有識者 1 名）、監事 2 名とする。
- ②年 4 回定期理事会を開催し、正会員の意見を集約しつつ、事業計画・予算及び総会議案など重要事項について決定機関の役割を担う。

#### (2) 事務局

- ①事務局長人材の持続的な確保を目指して、一定の報酬を含む事務局経費の確保を目指す。
- ②専用事務所の将来的確保を目指す。
- ③運営経費助成が可能な助成制度に対し 2020 年度より申請を行う。

#### (3) 定例会・勉強会

- ①定例会は従来通り年 10 回程度開催し、正会員を核としつつも幅広い国際協力関係者の情報交換の場を目指す。
- ②勉強会は基本的に公開とする。

### 2. 財政基盤

事業の充実を図るため財政基盤の強化に助成・委託制度の活用を目指す。

- ①運営及び事業に必要な資金を獲得することで、運営基盤を強化し、事業の実施を可能にして、ネットワーク NGO としての役割を高めることを目指す。
- ②2020 年度より運営助成・事業助成制度に申請を行い、実施体制（担当理事、連携・協働 NGO、事務局、臨時事業要員）を事業毎に検討する。
- ③会員サービス充実のため正会員の会費を 5,000 円にする。

### 3. 今後のスケジュール

- ①3 月理事会で 2020 年度事業計画/予算へ反映させる。
- ②6 月総会で議案に反映させる。



# グローバルセミナー2020



こちらのロゴ  
見たことあり  
ませんか？

～地域で育むグローバル市民～

## 持続可能な開発目標

【2030年までに持続可能な世界を実現するため  
に、2015年に国連で採択された17の開発目標】

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



世界の途上国も先進国も、様々な難しい課題を抱えています。もちろん日本でも。

そして、いろいろな分野の人たちが、SDGsと向き合い、様々なパートナーシップのもと、その課題解決の目標に向けて取り組んでいます。

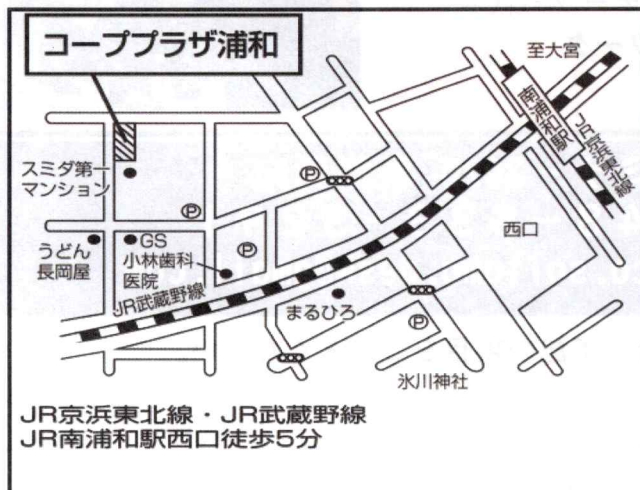
私たちも、『SDGsを通して、誰一人取り残さない社会を実現するため』、日々の生活の中で何が出来るかを、皆で共に考え、実践に向けて第一歩を踏み出す「きっかけ」にしませんか！

## 第一部：JICA教師海外研修「報告発表会」

ザンビア・パラグアイを巡り、様々な人々に出会い、SDGsを絡めて沢山のことを研修され、帰国後、その経験を活かして活躍している埼玉県内の先生方による貴重な実践報告会です！！

## 第二部：“SDGs”～誰一人取り残さない～

「誰一人取り残さない」ために、様々な形で支援活動を実践している5名の講師によるパネルディスカッションや、参加者全員によるグループワークなどを通して、私たち自身が明日から動き出すためのスタートとなる貴重な時間です！



2020年2月9日(日)

10:00～16:45 (9:30受付)

場所：コーププラザ浦和

〒336-0018 さいたま市南区南本町 2-10-10

対象：若者(中・高・大学生・社会人)

教員、NGO関係者、在住外国人、関心のある方どなたでも！！

定員：先着100名

参加費：無料

【問合せ】グローバルセミナー2020事務局：(公財)埼玉県国際交流協会内  
TEL.048-833-2992 平日10時～17時 (担当：難波・矢田部)

【主催】(特定非営利活動法人)埼玉NGOネットワーク、(公益財団法人)埼玉県国際交流協会、  
(独立行政法人)国際協力機構 東京センター(JICA東京)

【後援】埼玉県、埼玉県教育委員会、さいたま市、さいたま市教育委員会  
生活協同組合コープみらい埼玉県本部、社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会



# <プログラム>

10:00 開会あいさつ：JICA 東京、(公財) 埼玉県国際交流協会

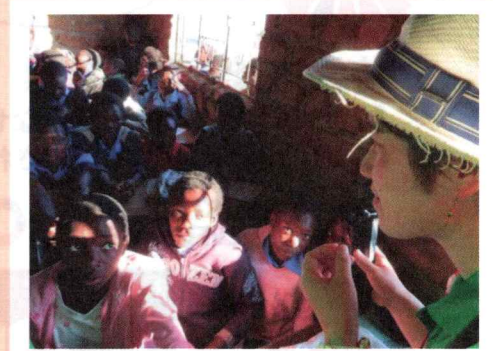
10:10 【第一部】：2019 年度 JICA 教師海外研修参加教員による SDGs 実践報告会  
「ザンビアとパラグアイの SDGs は、今どうなってるの？」

① ザンビア・コース：

- ・須賀 与恵 教諭 (川口市立小谷場中学校)
- ・大塚 由貴 教諭 (埼玉県立杉戸高等学校)
- ・仲田 莉果 教諭 (埼玉県立大宮中央高等学校)

② パラグアイ・コース

- ・蓮池 理之 教諭 (新座市立第四中学校)
- ・駒谷 健介 教諭 (埼玉県立大宮工業高等学校)



12:00 昼休み

13:00 【第二部】：「“SDGs”～誰一人取り残さない～」

ファシリテーター：福田 訓久 氏 (株・メディア総合研究所/拓殖大学講師)

■はじめに：「誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指す“SDGs”とは？」  
(福田 訓久 氏)

13:15 ■パネルディスカッション：「私はこんな思いで、こんなことを実践しています！」

- ① 弁護士として外国人の人権支援：渡邊 祐樹 氏 (弁護士)
- ② お寺が取り組む子ども食堂：石井 秀和 氏 (和光市・満願寺住職)
- ③ 発達障害・不登校などの子どもの居場所づくり：木村 麻衣子 氏  
(放課後デイサービス・児童発達管理責任者)
- ④ 県の取り組み「こども応援ネットワーク埼玉」：内田 貴之 氏  
(埼玉県福祉部・少子化対策局長付企画幹)
- ⑤ ラオス住民への生活支援 (水支援・フェアトレード)：秋本 佳之 氏  
(特定非営利活動法人ワールド・サポート・プロジェクト理事長)

14:50 ■グループワーク

- ① 世界で、どんな人が取り残されている？ (問題の確認)
- ② 自分ごととして出来ることは？ (実践に向けて)
- ③ 参加者からの発表 (話し合いの共有)

16:15 【全体のふりかえり&今後への提言】：「学びから実践へ」

赤石 和則 氏 (グローバル教育フォーラム代表)

16:35 閉会あいさつ：NPO 法人埼玉 NGO ネットワーク

16:40 閉会 (アンケート記入)



グローバルセミナー2020 事務局宛

FAX：048-833-3291

Email：jica.saitama.desk@gmail.com

【参加申込】

\*FAX または Email でお申し込み下さい。Email の場合、下記の項目をご記入ください。

\*受信をもって申込みは完了となります。

氏名		所属団体	
TEL		Email	(*学校の場合、学生/教員)

\*申込者の名簿は主催団体が管理し、グローバルセミナーに関する連絡以外には使用しません。